

森林保全のシンボルに

苫東一のドロノキにしめ縄

苫小牧地域の工業基地、苫小牧東部地区(苫東)で森林保全などに取り組むNPO法人「苫東環境コモンズ」(原口佳記代表)は、開拓期から地域を見守ってきた苫東一の巨木「ドロノキ」に手作りのしめ縄を飾った。「こ神木」として、今後の森づくりのシンボルにしたい考えだ。

(俵積田雅史)

ドロノキは、株式会社苫東が所有する安平町遠浅の大島山林(約70㌔)内にあり、樹齢は推定100年。根元は直径1㍍超、高さ約25㍍あり、無数の枝を天に広げている。

大島山林では、株式会社苫東の許可を受け、コモンズと地元の遠浅自治会の有志が中心となって昨冬から、草刈りや間伐などを実施。「NPOと地域住民が協働で森づくりを

行うシンボルツリーにしよう」と、10月からドロノキ周辺の整備を進めてきた。

しめ縄はスゲを材料にコモンズの会員が手作り。長さ約3㍍。6日に早来神社の宮司高

橋晴昭さんを招き、奉納を行った。苫東環境コモンズ事務局、草刈健さん(59)は「大島山林内の整備はまだ3、4㌔と1割も進んでいないが、ドロノキに見守られながら作業を進めていきたい」と話している。

森づくりのシンボルとしめ縄が飾られたドロノキ

